

緑のダイヤモンド計画

白山国立公園を整備

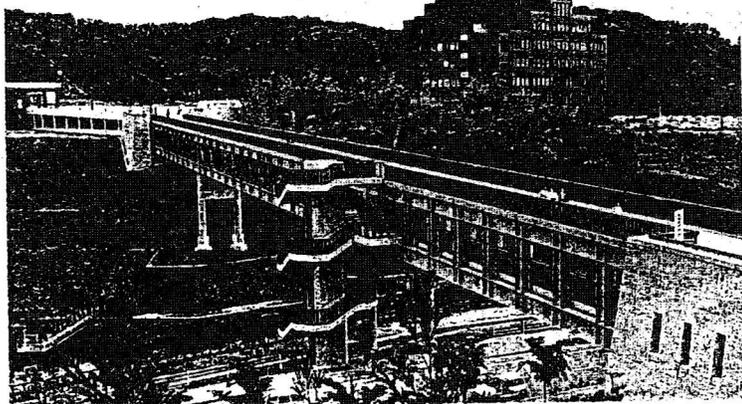
環境庁は五日までに、日費に二億四千五百万円を計本の代表的な景観を保全する同庁の新規事業「緑のダイヤモンド計画」の整備箇所、石川県の白山国立公園の白山地域を決めた。七年度から五年計画で高山植物などの自然環境の復元、自然体験の場の整備などが行われる。

緑のダイヤモンド計画は、国と県が国立・国定公園の核となる地域で自然を保全、復元しながら、学習、遊、休憩所、トイレなども設置することをしている。国と県を合わせた総事業費は、五年間で約三億円が見込まれている。緑のダイヤモンド計画の整備箇所には本年度、白山のほか、長野県の上高地が指定された。

環境庁は五日までに、日費に二億四千五百万円を計本の代表的な景観を保全する同庁の新規事業「緑のダイヤモンド計画」の整備箇所、石川県の白山国立公園の白山地域を決めた。七年度から五年計画で高山植物などの自然環境の復元、自然体験の場の整備などが行われる。

緑のダイヤモンド計画は、国と県が国立・国定公園の核となる地域で自然を保全、復元しながら、学習、遊、休憩所、トイレなども設置することをしている。国と県を合わせた総事業費は、五年間で約三億円が見込まれている。緑のダイヤモンド計画の整備箇所には本年度、白山のほか、長野県の上高地が指定された。

「アカンサス インターフェイス」と名前が決まった金沢大学キャンパスの連絡橋＝金沢市角間町で



環境庁

キャンパス結ぶ「アカンサス インターフェイス」

きょう金沢大1期移転完成記念式

金沢大学の金沢市角間地へ移して移転を終えた。区の総合移転・第一期計画「記念式典には、岡田晃学面事務が完成したことを祝う。記念式典が、同大の開学官、森田朗代議士(元文部省)の三十一日、角間本部大臣、谷本正憲知事ら四百七十八人が出席して祝う。連絡橋は、月に完成、キャンパス内の長さ百三十六メートルの道を挟んで南北に分かれるキャンパスを結ぶ橋で、実際には四月から「アカンサス インターフェイス」と名を付けることを学生が使い始めている。

巨大連絡橋の命名・通行式も

決め、記念式典後に命名、「アカンサス」は同大の校章にデザインされているゆかりの植物で、全学の交流の場にと願う意味合いから「インターフェイス」という言葉と組み合わせ命名した。

金沢大のキャンパスは、角間のほか金沢市宝町(医、薬学部)、小立野(工学部)、鶴間(医療技術短大)に分かれている。

蒲原君を偲んで

36期のみなさんは仲間でテントを購入し、今後も8月下旬の追悼山行を続けていくそうです。連絡先は石川明弘さんになっています。

* 石川 明弘

蒲原との写真を見返してみると、私と彼と朝日と立川が岩をかかえているものがある。これは、倉谷へ岩魚を釣りに行こうということで行ったのだが、全く釣れず、川で泳いだ時のものである。太陽が出ている時はポカポカ暖かいのだが、雲に隠れると急に寒くなり、皆温かい岩を抱えて温まっているのである。これはたしか2年の初めの頃だから一番ヒマな時で、遊びまくっていたような気がする。

フォルクスワーゲン・サンタナ号が運転されたのもこの頃で、金石港、湯涌温泉などエリアを広げて遊んだ。

名古屋へカヌーを買いに行こうと、蒲原と田中と新保さんで出掛けた。その帰り、皆疲れて眠たいのに、蒲原は運転している私を気づかって「俺一緒に起きてやるわ。」と言ってくれたのはうれしかったが、つまらないオチのない話がえんえんと続き、倍くらい眠たくなったのを覚えている。

ワングル部院の中では蒲原とけっこう遊んだグループに入る。最近もしここに蒲原がいればこうなっているのかなと考える時がある。だいたいこんな感じだろうか…。

田中 いやーお前。ほんまバカボンに似とるわ。

石川 ほんま ほんま。

新倉 かわいそうやろが。

蒲原 ありがとう新倉。そういつてくれるのはお前だけや。

田中 新倉、お前も少しは思っているやろが。

新倉 少しね。

蒲原 も一、みんなきらいだ。



*蒲原君について 金井 一人

1年が終わり、2年の春頃に蒲原君とはまだ同じパーティーになったことがないのに気付いた。そのうち同じパーティーになれるだろうと思っていたが、結局同じパーティーで山に行くことはなかった。非常に残念に思う。一度でいいから一緒に山へ行きたかった。

また、蒲原君とは同じ工学部で同じ学科だった。そのためか、部 (山) での印象より、学校の方の印象が強く、もし剣の事故が起きていなかったら、蒲原君だったら、どこの研究室を選び、卒業後の進路をどのようにしただろうと時々、今でも思う。

*ぼくとカマハラ 新倉 崇之

「おはよう新倉、元気？」というのが彼の挨拶だった。その度に (なんだ、このなれなれしいやつは。男でしっかり朝の挨拶をし、しかも元気?なんて聞くのは外国人くらいだぞ) と思ったものだ。でもなぜか自分も今、真似しているが。

そうだ、やつはうちの同期の中では天然記念物的なやつだった。どこが、というと、彼は Shy なワングラーではなく Aggressive なのだった。特にそう感じたのがうちの2年の新トレ。最終日の奥三方の林道終点からの下りの林道で。彼はずっと1年生の女の子としゃべっている。だがオレは一人時々ため息をつき、なぜか中島みゆきを口ずさみながら前へずんずん歩く。よくそれだけしゃべれるな、というくらいとうと

うとしゃべっていた。でも誰彼の区別なく平等に話かけることが彼の素晴らしいところだった。だからオレもまずは挨拶から、と真似し始めたのかもしれない。

このように彼のことを思い出すと、同時に自分に対する怒りや非力を感じる。彼との楽しかった思い出だけでなく、そういう感情も忘れてはならない。そういう点で、彼と自分との関係は永久に続く。

* 立川 健吾

僕に、生きることを楽しむ、そして常にそのための工夫をする、ということを教えてくれた蒲原 良太郎君と別れて2年半余り。これまでの自分の生活を振り返ってみると、何か蒲原君に対してすごく申し訳ない様な気がします。折角いいことを教えてもらったにもかかわらず、僕はそれを実践することなく、ただ周囲に流される様な生活をし、多くの可能性とチャンスをみすみす逃がしたのではないだろうか、と思います。

今ここに学生生活が終わりを告げるようになりました。これまでのように、自分自身のための時間を持つのは、かなり大変になると思います。しかし、それだけに今後与えられた自由な時間は、最大限自分のために有意義に使わなければならない、という様にも感じています。同じ過ちは繰り返すまい、そう思います。

春から新たなスタートを切ります。気合を入れてー。

*蒲原 良太郎君について思う事 朝日 秀樹

もう既に事故が起きて2年以上過ぎてしまいました。しかし、山に登るたびに、昔の山行の写真や計画書を見るたびに蒲原君の事をはっきり思い出す事ができます。剣に登り、あの場所を通る時はいつでも、心の中で蒲原君に話しかけます。ワングルで最近あった事、自分が最近思っている事などを彼に話しかけます。もちろん彼は答えてはくれません。しかし、澄みわたる空の雲の切れ間から、連なる青い山々の向こ

うから、きっとあの人がなつかしい笑顔を見せながら、彼はこちらを眺めていることでしょう。

僕は今、彼より2才年上になってしまいました。彼が生きることのできなかったこの時間を無駄にはしないと彼に誓って、僕は山を下りていきます。また来年、この山で会える事を願っています。



* 田中 充

ワングル四年間の思い出の半分は、カマハラの剣での事故死だ。

僕はワングルに入部する前から、友人や家族と山にはよく登ったし、テント生活も楽しんでいた。ハイキング程度だが雪山にも何回か行っていた。そんな僕がワングルに入った事でできた初体験が熊野川PWでカヌーに乗せてもらったことだ。初めてカヌーに乗った時の、なんともいえない浮遊感と、ゴムボートにはない自由さと、カヌーとの一体感はたまらないものがあった。

この川下りPWに誘ってくれて、共にこの体験をしたのがカマハラで、僕らは、この体験と、一冊の本(日本の川を旅する 野田知祐著)に感化されて、次の春にはカヌーを買うまでになり、事故がなければ2人で千曲川に行くはずだった。

カマハラが死んだ後、カマハラのカヌーは今部室の倉庫にあり、皆が使えるカヌーが一艇できて、カヌー初体験をした部員が多くできた。それにカマハラの御家族の方々とも親しくなれたし、追悼山行で毎年、みんなと顔を合わせる機会もできた。「だからおまえは、万年正月人間なんだよ」とカマハラに言われそうだが、思い出の半分の事故が辛い事ばかりでなく、いい事もあるんだと思えるようになってきた。

*今、蒲原に思うこと 沢田 哲之

あれから2年半。忽然と僕らの前から消えた彼について、私は初めて筆をとる。今、思うと悲しみよりはなつかしさが漂う。彼と行ったところ、語ったこと。昔のここのような、つい最

近の事のような…。

彼と、2年生の時、夏山について、特にパーティーについて二人で自分の家で話したことがあった。考えてみると、彼と互いに深く会話したのは初めてだったかもしれない。当時、一部の2年生の間では、夏山のパーティー分けに強い関心を抱いていて、私もその一人で、いろいろな人と意見を交わして、その流れの一つだったように思う。そこで、蒲原という男を今までより少し深く知った気がした。

具体的に言葉で表現するのは難しいのでうまく書けないが、人間やっばり一度深く話し合ってみてその人物を知れるのだということが判った。それまでは、たいして考えもない軽そうなやつと思っていたのだが、たかかパーティー分けだが、それなりに自分の考えを持っていた。やはり、うまく書けないが、とても印象に残っている事である。

* 樫村 美智子

私か歌に入学した時、遠巻きにこちらを窺う硬派な人達を尻目に、よく声をかけてくれたのが蒲原君でした。あの頃はまだ、なつかしのマッシュルームカットもどきの髪型で、両手を前にかざすという独特の話し方をしていました。

彼は世にいう<女らしい>という言葉で表現されるころの、感情表現の素直さや、ロマンティストな面を持っている反面、エールを切ったり気合を入れるというような硬派なことを愛するため、かなり愉快的なキャラクターでした。彼が住んでいたひまわり荘には、山の写真とか、拾ってきた棚やら、由緒正しき旧式炊飯器やらあって、タラコご飯か何かを食べさせてもらいながら「日本の夏だなー」と思ったものです。

あのツーリング自転車に乗って、にこにこしながら「かしむらー」とやって来る蒲原君は、なかなか愛すべきヤツでした。

* 蒲原 良太郎君へ 清水 勇一

あれからもう2年半も経ったのか…。でも俺はおまえのことを忘れてはいない。時々思い出

したりもする。

おまえとは同じ寮で部屋も近いということで仲が良かったなあ。毎日のおまえの部屋に遊びに行って、俺の寮生活の不満を聞いてくれたりもしたっけ。2人で石川の家へ遊びに行ったり、バイトも一緒にしたり…。

そう言えば夏合宿、一年の時も2年の時も一緒だった。けんかしてムカついたりしたこともあったけど、でも心の底では俺はおまえのことを尊敬していたんだ。人間的に俺よりも一回りも二回りも上だったのをよく分かっていていたから。

おまえが俺に対して最後にしゃべった言葉を昨日のこのように今でもはっきり覚えている。2年の夏合宿の帰り、糸魚川方面へ向かう電車の同じボックス席に、俺とおまえと柴田が乗っていたっけ。俺が実家へ帰るので松本駅で別れる時、おまえは笑顔で「じゃあな」と言ってくれた。その言葉を今でもはっきりと、鮮明に覚えている。

蒲原、短い間だったけれどありがとう。おまえに会えたことをとても感謝している。これからは社会人になれけど、きっとおまえのようないや、おまえ以上の立派な人間になってみせる。

いつまでも俺のことを見守っていてくれ。また剣で会おうな。

* カマハラ君の思い出 新道 聡美

私はいろんな所でカマハラ君を思い出す。

その1) ガムテープ

かずみちゃんがガムテープをビリビリと細かく裂いていたら、カマハラ君は「あ、手もずるしてる」と言っていた。それ以来、私のポキャブラリーに<手もずる>が加わった。

その2) 花の写真のテレホンカード

カマハラ君ちで電話を借りて、非常識にも長距離で話していたら、鬼のように怒られた。(後でお金を払おうと思っていたけど、ちゃんとあんなに思いきり、あんなに正直に力一杯、家族以外に怒られたのは、初めてだった。少し涙が出た。花柄のテレホンカードをあげて許してもらった。

その3) うちのドナ

私のうちには<ドナ>という名前のアヒルが住んでいる。本名はドナルドタック君という。彼のびっくりポーズはカマハラ君によく似て、かずみちゃんと二人でよく笑った。

その4) 悪女

私は生まれて初めて<悪女>と呼ばれた。カマハラ君に。

その5) ワンゲル

私は2年生から部活に混ぜてもらった。みんなシャイなのか知らんけど、なかなか入りたては淋しく、なにくそと思う日々だった。白山に

行って一緒に夕焼けを見た時も、朝会ってニコニコにおはようと言ってくれた時も、私にとって、カマハラ君はなかなか大好きな人であった。

私は同期のみんなより、一年分、カマハラ君についての思い出は少ない。いっぱい一緒に笑ったり、怒ったりして、沢山仲良くなりたかった。

人の一生があんまりあっけなくなってびっくりする。

どうしようもなく本当にびっくりする。

おわり。



兵庫地区金大ワンゲルOB各位

春爛漫の金沢では、石川橋の付替工事で閉鎖されていた沈床園が2年ぶりに開放され、石垣に登る者、素っ裸で走り回る者と、相変わらずのお花見コンパ風景が繰り広げられていました。

さて、あの阪神大震災から4月余り。兵庫地区在住の金大ワンゲルOBの皆様はいかがお過ごしでしょうか？

信じ難い光景をテレビで見る度安否が気づかわれ、また、事務局へも問い合わせがあったり、我が期は全員無事の連絡をいただいたりもしました。具体的に何のお力にもなれない親睦会の立場ですぐお訊ねを出すのも、被災された方々にご無礼なような、郵便事務をますます混沌とさせるような気がして、只々一日でも早い復興を祈ってまいりました。

今も何のお力にもなれないことに変わりありません。それでも、あの先輩は？あいつは？と、直接電話する間柄でもないけれど安否を気づかっているOBが大勢います。せめて次号の会報の中で、皆様の消息をお伝えできればと思っております。一応原稿用紙（部室の残材の中から確保してきたもの）を同封しましたが、量についての制限はありません。5月末締切で送付いただけますようお願いします。

秋の「月見の宴」は、このような事態のため中止も考えましたが、何が起こるかわからないご時勢なのだからやれる時にはやっておこうで、実施の方向で動いています。年が過ぎてからの大震災、地下鉄サリン、続くオウム真理教、円高の話題でますます忘却のあなたにもなってしまう、返信もおぼつかない状態になってしまいましたが、今のところ40名の参加希望が届いています。次回会報中に、正式日程と、正式申し込みを入れます。もしご都合がつくようでしたら、参加を心からお待ちし便宜を計らせていただきたく思っております。

まだまだ余裕もなく、お疲れのこととも存じますが、一言なりともご返信いただけますよう重ねてお願い申し上げます。